



パリアン人物伝 私を育ててくださった方々

医療法人社団パリアン理事長 川越 厚

第1話 日野原重明先生

享年 105歳「老いて病のときを生きる」

死生観を変えた出来事とは？

都心を離れた閑静な住宅街にある日野原重明先生のお宅を訪れたのは、お亡くなりになる4か月前の3月3日のこと。広島時代の話をお伺いするためだった。2年前にお会いした時よりも、先生はあきらかに弱っていらした。それでも記憶を辿るというふうではなく、80年以上前の話をつい昨日のこのように語ってくださった。

神戸育ちの先生が広島で2年間を過ごされたのは、京都で学生生活を送っていた間に、父君の善輔先生が広島女学院長に招聘され、一家が神戸から広島へと居を移されていたからだ。先生は結核を発病されて広島での療養となったのだが、当時(1933年)の結核は死の病として人々に恐れられていた。

当然、先生もそこで死を意識されたはずである。その後の先生の人生、特に医師としての死生観に大きな影響を与えたに違いない。インタビュー前、僕は単純にそのように考えていた。ところが先生は、「確かにショックだったが、死をまともに意識しなかった。学校を休んだ時も休学届を出さなかったのだよ」と軽くおっしゃった。予期せぬ答えであった。

先生が死を意識し、医師としての自分の生き方を大きく変えたきっかけは、『よど号ハイジャック事件』である。「解放されて羽田の地を踏んだ時の足の感覚が今も残っている」とのことだった。先生は当時58歳。一般的には定年前の年である。しかし先生にとっては、人生のちょうど折り返し点。持ち前の前向きな姿勢で人々に希望と勇気を与え、その後の半生を生き抜かれた。

最期まで全うする生き方を教わった

「まだやることがあるのですか？」という私の不躰な問いに、「来月、看護大生の入学式があるので、いま体調を整えているところだよ」と笑顔を返された。



私のインタビューの数日後、先生は肺炎のため聖路加国際病院へ一時入院され、7月18日未明、自宅から神様の御許へ召された。訃報を伝えてくださった秘書の佐藤玖子さんに、私は気になっていた入学式のことを伺った。出席はできなかったが、ビデオレターで「エイエイオー」と新入学生にエールを送られたとのこと。このような前向き、かつ末広がりな命を最期まで全うする生き方は、凡人には無理な注文。

先生がお亡くなりになってから、最期の様子をNHKが朝の番組で放映した。また元気になっていろいろな活動を続けたい、とおっしゃりながら、「死ぬのは怖い」と死を前にして語っていらした。正直、かつ本当に人間的な方だな、と思った。さらに亡くなる直前には、ご家族、特に最期までお世話をされた二男の連れ合いに感謝しながら、すべてを神に委ねる、というように先生は変わられたとのことだった。そのことを知って、僕はとてもうれしかった。

秘書の佐藤さんに電話をすると、彼女も最期の様子をテレビで知ったようで、「先生らしい、見事な最期」と声が弾んでいた。

先生が身を以て教えてくださったのは105歳までの長寿法ではなく、老いをいかに豊かに生きるべきか、だった。

デスカンファレンス

自立支援ホームへ退院した、末期がん患者の医療連携と看取り

訪問看護パリアン看護師 千葉麻衣

2017年11月24日、医師や看護師・ボランティアに加え、他施設のスタッフやケアマネジャー計4名をお迎えしてデスカンファレンスを行いました。

Aさんは清掃の仕事などを通して施設スタッフからとても慕われていた方でした。がんが見つかり抗がん剤治療をしていましたが効果に乏しく、今後の治療や療養場所について病院・施設スタッフから相談がありました。退院前カンファレンスを実施した結果、「皆が自分のことを考えてくれてありがたい」と在宅療養を希望され、施設に帰られました。

施設スタッフにとって、がん患者さんとの関わりは不安や緊張を伴うものだと考えられます。Aさんが苦痛なく過ごせるようにするのはもちろんですが、スタッフの不安や負担・混乱ができるだけ少なくなるように考えながら関わっていきました。と言って特別な事ではなく、施設のスタッフが既にAさん

の思いを汲みながら体調や生活に合わせたケアを行っていたため、それを支持する形が多かったように思います。Aさんの人柄やこれまでの生活背景など、こちらが教わることもたくさんありました。

医療用麻薬の管理や、ナースコールの代わりになるようなコール機の設置など、施設スタッフとの話し合いを重ねながら体制を整えていましたが、結果的にそれらを使用することなくAさんは穏やかに永眠されました。

短い期間でいろいろな調整が必要であり、施設としては初めての試みもあったため、迷ったり悩むこともありましたが、施設スタッフから、「Aさんらしく過ごせた」「良い看取りができた」という言葉をいただき、今は「これで良かったのかな」と思っています。施設スタッフと一緒にAさんの思い出話やケアの振り返りができ、貴重な時間となりました。

訪問看護パリアン公開勉強会

在宅ケアにおける倫理:ACPの実践

訪問看護パリアン看護師 齊藤美恵

聖路加国際大学の鶴若麻理准教授をお招きして、2017年12月8日に訪問看護パリアン公開勉強会を開催しました(区立緑小学校分室会議室)。テーマは、『在宅ケアにおける倫理:アドバンスケアプランニング(Advance Care Planning)の実践』です。パリアン以外からも多数ご参加いただき、36名が聴講しました。

主な内容は、“倫理と道德の違い・在宅ケアにおける倫理的課題・アドバンスケアプランニング(ACP)とは何か・倫理的フィットネスを鍛えよう・自分の実践を語る”の5つでしたが、特に「事前にケアを計画すること」と訳されるACPに焦点をあてて講義していただきました。

ACPは超高齢社会・多死時代の到来といった社会構造の変化における死への準備に対する意識の高まりを背景に、特に医学的意思決定の場面で求められているようです。鶴若先生は、そのうち在宅ケアに



におけるACPに着目し、現在「訪問看護師が療養者へ意向確認するタイミングの分析を通して」「アドバンスケアプランニングのプロセスと具体的支援」を明らかにする研究に着手されているそうです。講義では、先生が研究されている成果の一部も紹介してくださいました。多くの方が熱心に講義を聴き、参加者の専門性に応じた事例紹介、質疑応答なども活発に行われました。

倫理や道德という抽象的な概念を踏まえた、ACPの実践について分かりやすく講義していただき、貴重な学びの機会となりました。なにより、日常的に行っている患者さんとの関わりの中に、重要な理論が含まれていることを改めて認識する機会にもなりました。パリアンでのケアをより良くするエッセンスをいただいたように思いました。

地域医療研修

パリアンでは2016年度から、東京都立墨東病院の初期臨床研修医の地域医療研修を受け入れています。2017年度は4名の先生がパリアンで4日間の研修を受けました。そのお一人である坂本真也先生の感想をご紹介します。

在宅希望の患者さんへのアドバイスに、研修の経験を生かす

墨東病院研修医 坂本真也

オピオイドの有効性を再確認できた

緩和ケアについては、特にがん治療において急性期からの必要性が叫ばれており、病院勤務中も勉強して可能な限りは実践してきたつもりでございました。しかし、実際の患者さんに対して、「がんの進行が止められないから、痛みが残ってしまうことはある程度仕方がない。呼吸困難があることもやむを得ない」と思っていた部分があったのだと思います。

今回の研修中、1階の「小さな宿泊所」に入院された患者さんの呼吸困難が、オピオイドの増量で改善する様子を実際に見ることができましたし、苦痛緩和の有効性を何よりも再認識しました。体動時息切れが呼吸困難の症状と意識して診療に当たっていきます。

今まで病院診療でがん患者さんの診療を行う場面は多くありました。なかにはステージIVで根治的治療は望めず、Best Supportive Care（積極治療を行わず、症状緩和に徹すること）となった方で転院あるいは訪問診療と在宅緩和ケアへ移行していった患者さんもいました。

病状説明は上級医が行うためこれまでは同席のみでしたが、ご本人、ご家族に、病状の進行を説明すると同時に、残された生活をいかに元気で、希望の通り過ごすことができるかを説明する必要があるのだと思います。

自分のなかでは、いままで伝え聞いたなかで、病院（特に急性期病院）では生活環境が限られてしまうため、緩和ケア病棟や可能であれば在宅緩和ケアを勧めるのが良いのだと判断していました。そして、いままでの自分であれば、経験のない在宅での緩和ケアはあまり強く勧められず、ご本人やご家族が強

く希望した場合のみ在宅緩和ケアへ、それ以外は緩和ケア病棟への転院を勧めていたのではないかと思います。

在宅緩和ケアをイメージできるようになった

今回の実習で、在宅緩和ケアに携わるたくさんのスタッフの姿を見て、終末期、臨死期を自宅で迎える在宅緩和ケアのイメージを持つことができました。生活介助など介護の面でも、もちろん全く苦勞がないというわけにはいかないでしょうが、決して不可能ではないことを実感しました。

今後は、在宅での生活を希望される患者さんに対し、「実際に多数の方が在宅緩和ケアを受けている、一般的な治療方法の一つ」だとして、自身の経験をもって説明することができると思います。

知識や経験はすぐに身につくものではありませんが、意識はすぐに変えられると思いますので、11月からの診療に生かしていきたいと思います。

今後、がん診療に携わる道に進んでいこうと考えておりますので、避けられないがんによる死に対してどのように向き合っていくかを考える非常に貴重な経験となりました。

4日間という短い時間ではありましたが、緩和ケアのみならず、普段行っている診療を見直す貴重な経験となりました。ありがとうございました。



パリアンの玄関ではいつもお花がお出迎えしています（芝田葉子さん提供）

ラジオ日経 「大人のラヂオ」

2017年12月15日「川越厚のがんからの出発～患者に学ぶ」に出演された竹内俊男さんと川越医師の対談の様をお伝えします。

竹内さんは86歳、愛知県出身。幼少期は経済的には恵まれており、物事は自分の思う通りになると思って育ったやんちゃな少年だった。

東京に出てきてサラリーマンをしていたときに前の奥様と結婚し、昭和44年に渋谷で将棋道場を開設した。昭和53年に道場のお客さんにけしかけられて出場した読売新聞主催の第2回アマチュア将棋日本一決定戦で優勝。そのほかにも数々のアマ将棋戦に好成績を収めたアマチュア将棋界のレジェンドだ。今でも将棋仲間と2か月に1回の例会で腕を振っている。将棋仲間を通して、今まで孤独という感覚はなかったという。

ただ、昭和63年に最愛の奥様を悪性黒色腫(通称ほくろがん)というがんで亡くした時は、家に帰っても誰もいない寂しさを紛らわそうとして酒浸りとなり、伴侶を失った辛さは言葉に言い表せないほどだったという。

25年前に竹内さんも大腸がんになり大腸を4分の3摘出した。5年前には考えもしなかった大腸がんが再び見つかり、再度手術を勧められたが断っている。その後、主治医から在宅ホスピスケアを強く勧められた。主治医がさじを投げているのがわかったので

承諾したが、そのおかげで川越厚先生と知り合うことになり、在宅ケアを勧めてくれたことに感謝しているという。手術を断った時、医療から見捨てられた不安や疎外感という苦しみはあったが、死を覚悟することまでは考えなかったそうだ。

竹内さんは結果的にクリニック川越に辿り着いて、看護師の献身的な看護などに支えられて、死を前にした孤独や疎外感を感じない日々を過ごせている。今、そのコミュニティの中に、竹内さんは安心して身を委ねている。(江口)

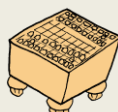


▲川越厚医師とよく対局していた竹内俊男さん(右)。

竹内さんは今年1月5日にご自宅でお亡くなりになりました。1月9日に訪問して新年のご挨拶をすることにしておりましたので、ご逝去の連絡にびっくりいたしました。

「病院を退院してからパリアンのことを知り、お医者さんや看護師さんが親身になって世話をしてくれる、こんなクリニックがあって、そこに会えて、本当に幸せです。私はこのことを将棋界のメンバーに話しても信用してもらえませんでした。こういうクリニックがあることを広めたい、そしてもっとこういうクリニックが増えることをこころから願っている」ということを訪問の都度、話しておられました。ご冥福をお祈りいたします。

ボランティア 江口



■ラジオ NIKKEI のホームページで、川越厚医師が出演した番組をオンデマンドで聴くことができます。

●大人のラヂオ <http://www.radionikkei.jp/otona/>

●日曜患者学校 <http://www.radionikkei.jp/inochi/>

死の臨床研究会

「在宅緩和ケアにおけるケアマネジメントのあり方に関する研究」発表

訪問看護パリアン看護師 本田 晶子

2017年10月7・8日に秋田県で開催された第41回日本死の臨床研究会年次大会に参加しました。今回、私は「在宅緩和ケアにおけるケアマネジメントのあり方に関する研究」というテーマでポスター発表を行いました。

これは、2015年度(後期)公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団一般公募「在宅医療研究への助成」を受けて実施した研究です。末期がん患者の場合、自立支援を目指した介護保険のケアマネジメントとは異なり、より全人的な対応が求められることから、在宅緩和ケアにおける望ましいケアマネジメントモデルの作成を目的に行いました。

当日は、在宅医や病院ソーシャルワーカー、訪問看護師らから質問を受け、課題を共有する貴重な機

会となりました。改めて、日々の実践や事例の一つひとつを大切に積み重ねながら、それらを研究的にまとめ、発信していくことの大切さを感じました。

発表後の夜には、パリアンの仲間とともに秋田名物きりたんぼ鍋を囲み、竿燈まつりを楽しみながら、チームの絆をより深めたひと時となりました。



姉妹ホスピス「ホスピスハワイ」ニュースレターより(日本語訳)

パリアンの姉妹ホスピスである“ホスピスハワイ”からは、ホスピスハワイのニュースや今後の予定などについての情報がメールで私の所に届きます。ホスピスハワイの働きが常に生き生きと伝わってくるのですが、今回、私の畏友の Ken が CPO (Chief Professional Officer : 最高専門職責任者) 職を退き、新しく Tori さんが Ken の後を引き継ぐことになりました。Ken のことを皆様にもっと知っていただきたいことと、新 CEO の Tori さんへのインタビューが Q&A の形でわかりやすく紹介されていることから、少し長いのですが、それを皆様に紹介したいと思います。

(川越 厚) ▲ホスピスハワイの正面玄関



※ホスピスハワイから 2018 年 1 月 2 日に配信された「Hospice Hawaii Quarterly Newsletter」の一部の日本語訳をご承諾をいただいて掲載しています。原文は <https://www.hospicehawaii.org/newsletters/39-1.html> にてご覧いただけます。

ホスピスハワイ前 CPO Kenneth L. Zeri さん 退任メッセージ



▲パリアンで講演中の Ken さん (2014 年)

みなさんこんにちは。私は以前より、ホスピスハワイのニュースレターに最後の社長メッセージを書いてほしいと依頼されていました。10年以上の間、私はニュースレターを通じて、ホスピスハワイを支援してくれた方たち、そして私たちの組織と特別なつながりのある方たちに働きかけを行ってきました。私は新しいプログラムについて何年にもわたって話をし、また、この仕事からもたらされる創造的刺激についてお伝えしてきました。そして私たちがケアを提供していく中で、患者さんや家族からいかに重要なレッスン(授業)の機会を得ているか考えています。そこで今日は、私の最後のメッセージとして

32年間の患者・家族ケアから得られたいくつかの知見をここで紹介しようと思います。

まず事前ケア指示書(advanced health care directives)のことから話を始めましょう。私たちの文化では、事前ケア計画(advanced health care planning)について愛する人と話し合うことを避けようとする傾向があります。こうした会話をするのは情動的に難しいことです。しかし、これまで数えきれないほどの家族が、「愛する人が人生の中で何を大切に、最後の数か月をどう過ごしたいか」を知っていることは、終末期のケアを選択するとき、素晴らしい贈り物になったと認めています。

次に、毎日、驚嘆と畏怖の念も持って取り組みましょう。自分の人生に存在するシンプルな美しさ、そして自分の周りで起こる愛と深い思いやりの瞬間を探し求めましょう。そこから感謝の念、恩恵の念が起こるのです。たとえ小さな赤ちゃんの笑い声やおばあさんの静かな歌声でさえも、私たちに人生の幸を気づかせてくれます。

さらに、許すことを実践しましょう。自分たちの

気分を害した人たちを許す実践をしましょう。なぜなら私たちが恨みを抱く時、私たちは結局、怒りの牢獄に行き着いてしまうのですから。そして、自分自身をも許す実践をしましょう。母は私によく言っていました。もし私が今日、何かミスをしたら、明日は確実に少しでいいからうまくやるようにと。もっとうまくやろうとするための自由な状態は、自分のミスを許すことからもたらされます。

最後に、あなたの知っている人が苦しんでいたら手を差し延べましょう。互いを思いやり、愛する人の命の終わりが近づいている家族への気遣いをしましょう。魔法のようなことは何も言えませんが、ただ「私の友人でいてくれてありがとう」と言うことが、人生を終えようとする人と感謝を伝えた人の両者に大なる力を与えることができるのです。

オアフ、モロカイ、ラナイ地域で活動するホスピスハワイの成功がこれから先何十年も続き、あなた方一人ひとりがTori Abe Carapelhoとホスピスハワイのチーム全体を支えてくださることに期待をしています。

アロハ

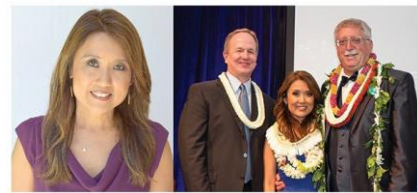


————— ホスピスハワイ 新CEO Tori Abe Carapelho さん インタビュー —————

2017年12月1日、Tori氏がホスピスハワイのPresident & CEO(Chief Executive Officer)としてかじ取りをするようになりました。彼女は31年以上ホスピスケアに携わり、退職したKen氏の後を継ぐことになりました。Tori氏は2008年にホスピスハワイに入り、近年はChief Strategy Officer(経営戦略責任者)としてマーケティングと資金調達の監督、入院、指導、特定プロジェクト、戦略開発を担ってきました。Tori氏へのQ&Aを通して、彼女のことを知ってください。



Meet New Hospice Hawaii President & CEO Tori Abe Carapelho



▲ホスピスハワイのニュースレターより

Q 新しい社長兼最高経営責任者として為すべきことのうちで、一番楽しみにしていることは何でしょう。

A 私はKenが築き上げ、この度受け継ぐ素晴らしいものにさらに積みあげていくことに胸が躍っています。私はこの重責を担っているのですが、この素晴らしい組織の将来のチャンスに目を向ける時、私にとって大切なことは、本当に戦略的で思慮深くなることなのです。

Q これまでの職務経験は、今回のホスピスハワイの指導的役割にどのように役立っていますか。

A 今までの人生で遭遇したあらゆる経験が、何が起ころうともそれに対処する心構えを与えてくれると信じています。いろいろな経験を通して何をすべきか選択できることが大切なのです。私はミスから学び、成功を積み上げていくことに全力を尽そうとしています。

Q 指導者として何があなたを奮い立たせてくれますか。

A 情熱です。自分の仕事に対する信念とまわりの人々と連携する能力があれば、どんなことでも実現

できるというのが私の哲学です。

Q あなたは保健医療分野でずっとキャリアを積んできたのですか。

A まったく違います。針が怖くて血を見るのも耐えられない人間です。偶然この仕事に巡り合ったのですが、最もやり甲斐があることに気づきました。医療従事者、特にホスピスケアに携わっている人々は、まるで聖人のようです。それは彼らにとって単なる仕事ではなく、彼らが助けうる人々と彼らが強い影響を与えうる人々の人生にかかわることなのです。

Q ホスピスケアに関する一般的な認識をどのように変えたいと望んでいますか。

A ホスピスとは人々が考えざるを得ない時が来るまでは考えたくないものです。人々が終末期に直面する時に、ホスピスケアを初めて紹介されることがほとんどです。そのため人々は不安になり多くの精神的重圧を感じ、考えがまとまらなくなるのです。継続的な教育と早い時期からホスピスについての会話をすることが解決のカギで、人々がしだいにホスピスの話を自由に気楽に話せるようになることが私の望みです。

Q ホスピスの組織には感情的になる瞬間がつきものですが、あなたはこの仕事をしていて、自分の感情が出そうな時どのように乗り切っているのですか。

A ホスピスハワイは患者さん・家族の痛みや苦しみの緩和、支援と助言、愛する人との特別な思い出を提供しているという前向きな状況を、常に自分自身に言い聞かせています。

Q もっともインスピレーションを受けているのは誰からですか。またそれはなぜですか。

A Ken です。彼からは情熱があふれ出ています。2008年にKenに出会って間もなく、彼は一緒に働いてくれないかと尋ねてきました。納得いくまでに時間はかかりましたが、とうとう私はその話に乗ることになったのです。彼は、私が今知っているホスピスケアに関すること全てを教え、私がより良い人間になる手助けをしてくれました。Kenは私たち組織の礎を作り出しました。つまり他者を助けること、誰もが望む無条件の愛と深い思いやりを提供することです。

Q ホスピスハワイでの仕事で一番良いところはなんですか。

A ホスピスハワイはこの地域のために地域によって作られた小さな非営利組織です。もちろん私たちはビジネスをしているのですが、一番の目標は最良の終末期ケアを患者さんとその家族に提供することです。そのためにはホスピスハワイの理念を日々実践することであり、それに基づき常に適切な行動を確実にできるようにすることです。

Q ホスピスハワイが地域の中の似たような組織よりも際立っていることはなんでしょう。

A ここで働く人たちです。私たちの企業哲学は「Na Hoa Malama」、つまり「思いやりのある友人」です。チームの一人ひとは、その哲学だけでなく信頼、誠実さ、尊重、深い思いやり、協力というホスピスハワイの5つの基本的価値観を信じています。ホスピスハワイは単なるビジネスをはるかに超えています。私たちチームは自分たちが実践していることを本当に大切にし、そして自分たちのミッションを信じているのです。

Q ホスピスハワイのお気に入りのイベントはなんですか。またその理由を教えてください。

A すべてです！ Hot Pursuit (募金イベントの一つ。チームで課題をクリアしながら競争する) は楽しさとホスピスを知る刺激的な方法を提供してくれます。A Night to Remember (亡くなった家族を偲ぶ会) は家族の癒しに役立っていますし、Na Hoa Malama (募金イベントの一つ。地域に貢献した患者や医療者等を表彰する) は地域に影響を与えた患者さんたちに敬意を表しています。

Q ホスピスハワイで仕事をしていてもっともやりがいのある状況はなんでしょう。

A 私たちが行った仕事あるいは提供したケアが、ある人の人生に変化をもたらしたと知ることです。患者さんと家族が私たちの優先事項です。私たちは誰もが自分自身の旅をしていることを理解しています。私たちの役割は患者さんや家族を未知の旅へと案内し、支援することです。



在宅ホスピス緩和ケアの看護を学ぶ1日研修会 開催しています

訪問看護パリアンでは、病院の看護師さんで、訪問看護・在宅緩和ケアの現場を学んでみたい方のために、今年1月より定期的に1日研修会を開催しています。

1日研修会に参加した方からは、「患者さんの自宅で、実際の在宅ホスピス緩和ケアの現場を見ることができて、今後の病院での退院調整では、患者さんやご家族に具体的なイメージがもてるよう話をする自信がついた」「患者さんの希望や願いを中心にした理想のケアだと感じた。羨ましい」等、現場を知って具体的に学んでいただけたことに、パリアンスタッフ一同嬉しく感じています。

1日研修会は、在宅ホスピス緩和ケアの「百聞は一見にしかず」です。より多くの病院看護師さんが学べるよう、5月以降もこの在宅ホスピス緩和ケア1日研修会を開催します。4月初めに改めて御案内する予定ですので、パリアンのフェイスブックやホームページをご確認いただき、専用フォームからお申込みください。お問い合わせを、電話やメールにてお待ちしております♪♪♪

パリアンホームページ：<https://pallium.co.jp>

TEL：03-5669-8302 Mail：webmaster@pallium.co.jp



パリアンスタッフ講演・講義予定

※フェイスブックでも講演予定を随時紹介しています。
(<https://www.facebook.com/hospice.pallium>)

| 講演者 | 開催日 | 会・大学 | 演題 | 会場 |
|--------------|------|--------------------|--------------------------------|--|
| 川越 厚 | 2/17 | 第32回翠仁会総会 | 医学はサイエンス(科学)の上に成り立ったアート(芸術)である | 広島市内 |
| 川越 厚 | 2/19 | ツナガルLive 1st | 在宅緩和ケアにおけるオピオイドの実践的、応用的な使用方法 | 塩野義製薬渋谷営業所 ライブ配信会場：墨田区、足立区、品川区、八王子市 |
| 川越 厚 | 2/22 | (院内研修会) | ホスピスケアの過去・現在・未来 | 杏雲堂病院(東京都千代田区) |
| 川越 厚 | 3/1 | (施設内研修会) | 看取りの心得 | 有隣ホーム(東京都世田谷区) |
| 川越 厚 川越博美 | 4/15 | 一般社団法人 だんだん会講演会 | 在宅ホスピスボランティア | だんだん会(山梨県北杜市) |
| 川越 厚 | 6/2 | 福知山市宗教者懇話会 | 納得のいく死を実現する医療 | ハピネスふくちやま (京都府福知山市) |
| 川越 厚 | 6/25 | 聖路加国際大学大学院 | ケーススタディ：在宅医療と倫理を考える | 聖路加国際大学 (東京都中央区) |

パリアン実習予定

| 実習日 | 所属 | 実習・研修名 | 人数 |
|-----------|------------|-------------------------|----|
| 7月23日～27日 | 東京大学医学部 5年 | 公衆衛生学実習(在宅でのホスピス緩和ケア) | 4名 |
| 8月20日～24日 | 帝京大学医学部 5年 | 公衆衛生学実習(終末期医療-在宅ホスピスケア) | 4名 |